

視点(2441)

世の中の社会現象の解明手法!!

(研究思考と成果の概念編)

世の中で起こる社会現象には不思議な現象もあれば、解明された現象もあります。この社会現象を解明レベルから見ると次の通りです。

(1) 現象の解明レベルのタイプ

世の中に起こっている社会現象が空気のように自然に起こっており、何も感じない、何も分かっていないレベルの現象が多くある。



この社会現象の因果関係の解明レベルのタイプは次の4つです。



第1 推計	第2 結果・仮説	第3 類似・仮説	第4 論理・仮説	第5 理論
現象の結果をこうなるはずだという未知の推計で解明されている現象	現象の結果が数値的に検証されているが、メカニズム的にも事例的にも解明されていない現象	現象の結果が事例(類似)から解明されるが、メカニズムや数値的には解明されていない現象	現象の結果がメカニズム的には解明されているが、数値的には解明されていない現象	現象の結果がメカニズム的にも数値的にも解明されている現象

※第1の「こうなるはずだ!!」の推論の内容は次の2つです。

- ①異なる分野(社会現象や自然現象)からの類似性より推計
- ②現在、解明されている現象の延長線上の推計(アインシュタイン理論とも言う)

(2) 現象の解明とエビデンス(根拠)

経済や社会や流通や消費やSCの業界の中で色々な現象があり、その現象には必ず因果関係があり、不思議な現象はありません。不思議な現象は、我々が原因を見つけることができないからです。

私は流通業で「不思議な成功も不思議な失敗もない!! 成功には成功の失敗には失敗の理由があり、理由が分からないのは我々が原因を究明していない!!」からと言っています。

この現象としての「結果」(結果が上手くいっている現象や結果が上手くいっていない現象)を検証するためには次の3つの手法があります。

現象(起こっていること)の結果(こうなっている)
結果が上手くいっている現象と結果が上手くいっていない現象



検証(根拠づける=エビデンス)



第1	第2	第3
事例で検証	メカニズムで検証	数値で検証
類似事例を探索してエビデンスとする手法	メカニズム(どうしてそうなっているのか?)を解明してエビデンスとする手法	結果を数値(成果や失敗の数値化)で検証してエビデンスとする手法
上記の3つをエビデンスとすることができると完璧(パーフェクト)エビデンスと言う		

(株)ダイナミックマーケティング・パートナーズ
会長・六車流研所長 むぐるま 六車秀之